

日時：2022年4月29日（金） 10：30～16：30

場所：神戸ポートピアホテル



◆ 会長部門

次年度会長 本 條 昇

次年度、ロータリー史上初の女性RI会長となるジェニファー・ジョーンズ氏の会長テーマは、“IMAGINE ROTARY”（公式和訳も「イマジン・ロータリー」）です。我々が世界にもたらし得る変化を想像して描く夢の実現に向かってベストを尽くす、そんなロータリーの姿が「イマジン」に込められた思いです。

阪上栄樹ガバナーエレクト（宝塚RC）は行動指針に「Let's Enjoy Rotary!! 共にロータリーを楽しみましょう、ロータリーの明日に夢を込めて」を掲げました。その重点目標は、①全てのロータリー活動が「ロータリーを楽しむ場」となることに重点を置く、②DEIの理解を深め、地区と全てのクラブに浸透させる、③会員増強を推進し、新しいタイプのクラブを創出する、の3点です。

全体会議では、阪上ガバナーエレクトの方針発表のほか、3人の当地区パストガバナーが登壇され、元RI理事でロータリー財団管理委員の三木PDG、次期地区研修リーダーでロータリーコーディネーターの滝澤PDG、そして次期ロータリー公共イメージコーディネーターの丸尾PDGより、それぞれの立場からRIの方向性について講演がありました。

また永井壮一ロータリー財団地域コーディネーターからは、「ロータリー財団と共にインパクトをもたらす」というお話がありました。

会長部門分科会では、阪上ガバナーエレクトのスピーチに続いて、滝澤地区研修リーダーの指導のもと、「クラブの活性化」をテーマに、地区研修・協議会としては当地区で初めて、RLI形式の研修が行われました。私にとっては、他クラブの会長エレクトとの濃密なディスカッションを通じて、クラブ会長の役割について学ぶ貴重な機会となりました。



◆ クラブ管理運営部門

次年度クラブ奉仕委員会 委員長 富 田 哲 雅

地区・次年度クラブ管理運営部門の報告を以下の通り致します。

1. クラブ管理運営の基本について（中村尚義クラブ管理運営アドバイザー）

中村パストガバナーにより、自ら作成された「クラブ管理運営マニュアル」に基づき、ロータリーの基本理念について説明された後、クラブ管理運営は、クラブの活性化と多様化を図る為に他の委員会と連携し、①親睦と奉仕をロータリーの中核的価値として、②高潔性と協調性を重んじ、③柔軟性と革新性を以て、有意義なものとなるように努めるべきと説明されました。また、クラブは、縦社会の欧米流のロータリー思想を、公平性やDEIを導入して人間性や調和を重視する横社会に繋げる様に規則の見直し等に取り組むべきと述べられました。

2. クラブに於ける規定審議委員会について（林和弘規定審議委員長）

RIの3年毎の規定審議委員会がこの4月に開催され、34件の決議が採択ありましたが、これに伴い、7月に定款等の変更、10月に日本語訳が示されると説明がありました。尚、今回の決

議では会員の所属住所要件や地区への出席報告義務が無くなる等々の変更が含まれる様です。  
また、5月29日に地区のセミナーが開催されると連絡がありました。

### 3. OM推進小委員会について（山口幸クラブ管理運営副委員長）

OMとはON LINE MEETINGのことで、COVID19に伴うBCP計画の必要性から地区に於いて2020年にOM推進小委員会が発足した経緯と、OM推進小委員会の役割としては、例会の新しいスタイルを提案し、また各クラブのOM推進をサポートすると説明がありました。

### 4. クラブ管理運営について（矢坂誠徳クラブ運営管理委員長）

クラブ管理運営は、5大奉仕の1つであり、クラブの舵取りをする重要な役割とクラブの意識を高める責務があり、ロータリーの中核的価値観、即ち、親睦・多様性・高潔性・奉仕に基づき、クラブをより良くする為には、クラブの現状を把握し、目標を決め、リーダーシップを発揮して如何にそれに取り組むかを計画し、そして、その進捗を確認した上で、新たな行動計画や危機管理を策定し、行動すべきと指摘がありました。

また、クラブ管理運営について、My Rotaryの登録とMy Rotaryのラーニングセンターの活用推奨がありました。

以上



#### ◆ 会員増強部門

##### 次年度会員増強委員会 副委員長 池田和由

次期会員維持増強委員会の副委員長、橋本雅彦氏の司会で分科会が開始されました。委員長は昨年会員増強委員会アワーで例会にお呼びした梅原可奈子氏です。

まず、当地区の現状分析の報告が行われました。当地区の会員数は2,592人で内女性会員は121人。女性会員比率は国内34地区中で34番です。クラブの平均会員数は37人。会員の平均年齢は63.1歳。例会開催時間と女性比率の関係では夜間に例会を行っているクラブは女性会員比率が23.3%で世界水準に近いというデータも発表されました。

現状分析の後は会員維持増強委員会でカウンセラーの任を担われる吉岡ガバナーの「窓を開けてみよう！～オープン例会のススメ」と題してレクチャーが行われました。これは新会員候補者を例会に招待しロータリーの例会は有益であることを知って頂く機会とするものです。ロータリーは社交クラブなので排他的な部分も必要と前置きをされながらも、会員増強に本気になること、覚悟を持つこと、愛を込めて丁寧に接すること、出来る事は全てやること、人任せでは仲間は増えません。と締めくくられ予定よりも30分早く分科会が終了しました。



#### ◆ 職業奉仕部門

##### 次年度職業奉仕委員会 委員長 一色かつみ

職業奉仕部門分科会（15:00～16:30）は、大内晋二委員長（神戸須磨RC）の最近のロータリーの問題状況－職業奉仕を中心に－という開催趣旨から始まりました。

～2019年7月よりDLP（地区リーダーシップ・プラン）の実施につき、職業奉仕委員会と青少年（新世代）奉仕委員会の責務が、社会奉仕委員会に統合された。地区はRI理事会によって設け

られ、地区はこれに対応せざるを得ない～

～2680地区の底流にある職業奉仕を根幹と捉えるロータリー観に寄り添い、「職業奉仕委員会」の「社会奉仕委員会」への全面的統合編入を避けるため、止むを得ざる措置として、研修委員会内に「職業奉仕・職業倫理小委員会」として編入する組織変更が行われた～

分科会では、職業奉仕の理念を中心としたお話しで、日本ロータリークラブが大事にしてきた職業奉仕理念について拝聴してきました。

講話（１）「決議23-34」の現代的意味…（PDG）安平和彦（姫路RC）カウンセラー

第1条ロータリーとは何か、これが一番重要である。品位・道徳的水準の向上、信用を高めること、自己の事業を高め、それが社会への持続発展に繋がるということでした。

講話（２）ロータリーの職業奉仕とその基礎にあるもの…大内晋二委員長（神戸須磨RC）

自己の職業を品位あるものとしたいというような人が集まったのではないか。事業を営んでいく、これが社会貢献に繋がる。自己の職業を通じて社会貢献する。それを適正に配分する。自らのサービスの概念、自己の職業とは何か、改めて問い直す、日々奉仕の理念を実践することであるということでした。

※決議23-34第1条（1923年セントルイス国際大会決議34号）

ロータリーは、基本的には、ひとつの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびそれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、－「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。



#### ◆ 社会奉仕部門

次年度社会奉仕委員会 委員長 伊 藤 充 弘

#### A：社会奉仕について

##### 1. 決議23-34

1923年の国際大会でロータリーの社会奉仕に関して採択された。

##### 2. 1992年規定審議会の声明

『社会奉仕は、ロータリアン一人ひとりが「超我の奉仕」を実証する機会である。献身に値することであり、社会的責務である。』

##### 3. ロータリーの社会奉仕

クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら会員が行う様々な取り組みからなるものです。

##### 4. 社会奉仕プロジェクトとは

- ① 地域社会と関連していること
- ② ロータリアンにとって学びの機会となること
- ③ 地域社会におけるロータリークラブの役割を見出すこと
- ④ 現状の支援源をもってロータリアンがどのような援助をできるか判断すること

##### 5. 社会奉仕になる項目

- (1) 助けになること：①危機下の児童 ②障がい者 ③保健（医療） ④国際理解と親善  
⑤識字能力と計算力向上
- (2) 解決につなげること：①人口問題 ②貧困と飢餓 ③環境保全 ④都市問題

## B：プロバスクラブについて

1. プロバスクラブとは、世界各地のロータリークラブが、その社会奉仕事業の一環として退職者及びセミ退職者のために創った親睦団体で、義務として強制されない社会奉仕団。
2. 兵庫県下のプロバスクラブ  
クラブ数 24クラブ  
人数 281名 女性106人 (37.7%) 平均11.7名／クラブ

## C：公共イメージ委員会

1. ロータリークラブ認知度：詳細認知13%、名前だけ認知49%、知らない38%
2. ロータリークラブの活動内容把握：会員同士の親睦45.3%、社会奉仕35.9%、募金活動21.7%、国際支援・国際交流18.7%……ポリオ根絶活動2.6%、知らない36%
3. 今後の行動：①見える積極的広報活動 ②SNSの活用 ③クラブ入会案内の作成



### ◆ 国際奉仕部門

次年度国際奉仕委員会 副委員長 高 田 真 也

#### 1. 2680地区の国際奉仕委員会運営方針

- (1) 国際奉仕のプロジェクトを推進するための効果的なセミナーを実施する。
- (2) クラブや地区がグローバル補助金等を活用し、多様な国際奉仕活動が実施できるように支援する。
- (3) VTT (Vocational Training Team 職業研修チーム)、奨学金、平和フェローシッププログラムを支援する。
- (4) 国際奉仕に関連する月間において、クラブの関連プログラムに協力する。

#### 2. 国際奉仕部門分科会プログラム

- (1) グローバル補助金の資金調達……国際奉仕委員会アドバイザー 室津義定様（尼崎中）  
グローバル補助金の申請にかかる説明があった。支給対象となる人道的プロジェクトの条件の説明があった。補助金対象重点7分野は、平和構築と紛争予防、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展、環境。
- (2) グローバル補助金について……国際奉仕委員長 安行英文様（三田）  
グローバル補助金は上記の7つの重点分野に関連していることが必要で、支援する内容は、人道的ニーズや課題、国際的な活動と調和、人々の健康状態の改善、質の高い教育の改善、環境保護、貧困をなくすことで、世界理解・親善・平和の達成、などを支援する。
- (3) グローバル補助金（奨学金） 平和フェロー奨学金  
さまざまな奨学金について説明があった。
- (4) VTT  
Vocational Training Team 職業研修チーム  
VTTとは、地域社会が主導し、その地域の人々に専門的研修を提供するチームを海外に派遣するか、研修を受けるチームを海外から受け入れるプログラム。グローバル補助金によるVTTと、地区補助金によるVTTとがある。

以上





#### ◆ 青少年奉仕部門

##### 次年度社会奉仕委員会 副委員長 圓 尾 哲 也

分科会では、船元美智子リーダー（次期青少年奉仕委員長）の挨拶の後、青少年の危機管理・ローターアクト・インターアクト・RYLA・青少年交換・学友委員会について担当の委員長ならびに小委員長より

説明がありました。

ここ二年間は新型コロナウイルスの影響が大きく各事業が停滞しているということで、今後は感染拡大の状況を見ながら進めていくとのことです。

#### 地区活動方針（青少年奉仕委員会）

- ・クラブの青少年奉仕活動の認知度を高め、協力体制を高める。
- ・青少年奉仕関連プログラムを関係委員会、クラブと連携し推進するとともにクラブの青少年奉仕活動の認知度を高め、協力態勢を強める。
- ・リーダー育成のための研修プログラムを構築する。
- ・インターアクトクラブの活動を支援し、より活性化するための方策を提案する。
- ・新たなインターアクトクラブの設立を目指す。
- ・RYLAプログラムへの会員の理解を深め、実施する。
- ・クラブとの協力のもとに青少年交換プログラムに取り組み、プログラムを成功に導くためのマニュアルを整備する。
- ・効果的なセミナーを実施する。
- ・青少年奉仕月間（5月）におけるクラブの関連プログラムに協力する。
- ・学友委員会他関係委員会と連携し、学友の活動を支援する。
- ・青少年奉仕関連プログラムの危機管理体制を確立する。



#### ◆ ロータリー財団部門

##### 次年度財団委員会 委員長 永 富 靖

2022-23年度ロータリー財団寄付の2680地区数値目標は、年次寄付：160 \$、ポリオプラスへの寄付：40 \$ となっております。よろしくお願いいたします。

地域社会を何よりも大切にするロータリーは、世界で最も必要とされる人道的ニーズは何かを考え、長期的な変化をもたらすために、特に6つの分野に重点を置いて活動してきましたが、さらに2020年6月より「環境」が追加されております。（なお、具体的な活動を含む言葉として「環境の保護」と使われることがあります）7つ目の重点分野としてロータリーは、天然資源の保全と保護を強化し、環境の持続可能性を高め、人と環境との調和を促す活動を支援します。

1. 陸地、沿岸、海洋、淡水資源の保護と回復
2. 天然資源の管理と保全を支援する地域社会と地方自治体の能力向上
3. 生態系の健全さを改善するための農業生態学および持続可能な農業、漁業水産養殖の実践の支援
4. その他

## ◆ 米山記念奨学部門

次年度財団委員会 副委員長 森 崎 嘉 章

### 1. 米山記念奨学事業について

リーダー（次期米山奨学委員長） 武本 正照

地区の寄付額で、米山留学生の数が決まり、各クラブの寄付額により、スポンサーとなる、留学生数も決まるが、もちろん留学生の通う大学との地域的な問題もある。2680地区の一人当たり平均寄付額12,781円（龍野RC12,736円とほぼ平均額である）、全国平均は15,516円。

### 2. 米山記念奨学生選考について

副リーダー（次期米山奨学副委員長） 竹内 博

昨年度25名、その前年度は27名

中国、韓国からの留学生が多いが、近年その割合は減少傾向にある。

### 3. 元米山奨学生として

第4代 よねやま親善大使 ウォーターズ・カレン・ジュニア

「世界をつなぐ米山学友」経済的な支援も必要だが、カウンセラー、ロータリースポンサークラブのメンバーの家族のような精神的フォローが大きかった。米山学友のことを知り、行動範囲が広がった。

### 4. カウンセラーを経験して

2016-2019年度カウンセラー 山本 秀憲

スポンサーをした年のみでなくその後も家族付き合いが続く

### 5. 寄付金について

副リーダー（次期米山奨学副委員長） 三宅 康雄

寄付目標額1人平均17,000円をお願いしたい。



## ◆ 幹事部門

次年度幹事 荻 野 正 和

### 1 高瀬前ガバナーのお話（「幹事の役割と心得」）

「YES」「はい」「喜んで」と言って、ロータリーでの様々な役割をお引き受けし、一生懸命やれば、経験も信用も得られ、自分自身の本業にも、自分自身の将来にも役立つような貴重なノウハウが得られるはずです。

それぞれ皆さんの状況で、できることを、頑張ってみてください。

### 2 斎藤太紀雄氏、白井良夫氏の幹事体験談

（1）幹事は、会長が語る夢・ヴィジョンを実現するべく、クラブの管理・運営を担う責任を負う。

（2）地区との円滑なやり取りのため、

①メールが全ての通信手段である。きちんと返事をする。

②次年度、委員会はハイブリッド形式も多いかと思うが、トラブルに備え、幹事が連絡役などを出来るようにしておくこと。

③ガバナー事務所の事務局とのやり取りは、メールとさせてください。（電話は、事務局の負担が大きいため。）

### 3 情報交換

赤穂RCの木虎様、上郡佐用RCの石原様、相生RCの平田様（代理でのご出席）、と名刺交換を行い、各クラブ現状について情報交換を行いました。

以上